

## 「第1回南相馬市スマートグリッド標準化検討委員会」概要

日 時 平成 29 年 1 月 13 日（金）15：00～16:30  
場 所 南相馬市役所 東庁舎 2 階 第一会議室  
出席者 南相馬市スマートグリッド標準化検討委員会委員（7 名）

### 【事務局】

復興企画部長、新エネルギー推進課

- 1．開会（新エネルギー推進課長）
- 2．市長あいさつ（復興企画部長代読） 略
- 3．委員長・副委員長の選出 略
- 4．議事

システム設置完了後、一程度の期間を経て得たデータ解析による効果検証

委員長： 事業期間が平成 27 年度末ということで、設備自体が全て揃っていなかった施設においては想定していた削減は見込めないため、目標を下回ったように見えてしまうと思う。設置直後も前年同月比という比較としてみてはどうか。

事務局： 今後 28 年度のデータを活用し、設置前との比較を行なっていきたい。

情報セキュリティに対応した情報発信について

委員長： 運用について、デマンド管理で電力使用量が多い場合、新エネルギー推進課へメールがいくことになっているが、削減や非常時用ということであればもう少し実効的なところへ情報がいくようにしなくてはいけないと思う。

事務局： 各関係課と調整しながら一番効果の出る方法で発信したい。

また、セキュリティの問題で外部からのメールがはじかれる場所があり、今後このセキュリティが強化されることになる。関係課と調整をしながら、最善の形で情報共有できるようにしたい。

環境学習への活用と他自治体の事例紹介

学校教育課長代： システムの環境学習での活用について、他自治体の例はあるか。

委員 A： 南相馬市のシステムと同じではないが、石巻市の小学校にも見える化のシステムが入っており、デマンドレスポンスという形式で、使いすぎなのでなるべく下げてくださいということを小学校と、中学校で行っている。

委員長： 一般の学校ではないが、郡山の工業系の専門学校が導入している。この学校では、省エネ機器類の施工をする人を育成しており、省エネ合戦していく手法をとったらどうなっていくのかと実践的に使っています。また、実際に実習でつかっているという事例もあり、学生たちに意見を出させるというようなことをやってみたところ、相当電力の使用量が削減できている。

システム設置完了後のデータを活用した適切な目標値（閾値）設定について

委員長： 各施設蓄電池の放出量については、特定の数値で固定値なのか。

事務局： 固定値で、現在は暫定で3kWhとしている。今後、データを基に設定していく。

委員B： 蓄電池のスケジュール運転機能やピークカット機能については、導入当初のままであると思うので、これからデータ等を見ながら運用を変えていく必要がある。